

世界希少・難治性疾患の日 カラーライトアップの実施について

毎年 2 月最終日は「世界希少・難治性疾患の日」です。

群馬県では、これに合わせ、希少・難治性疾患に対する理解促進と支援の輪を広げることがを目的として、**県庁昭和庁舎をシンボルカラーである「青・ピンク・緑」の 3 色にライトアップ**します。

1 期間

令和 8 年 2 月 21 日（土）から 3 月 1 日（日）まで

2 時間

日没（午後 6 時頃）から午後 10 時まで

3 場所

県庁昭和庁舎（前橋市大手町一丁目 1-1）

世界希少・難治性疾患の日（RDD）とは

希少・難治性疾患とは、患者数が少ないことや病気のメカニズムが複雑であることなどから、治療法の確立や創薬研究が進みにくい疾患を指します。

「世界希少・難治性疾患の日（Rare Disease Day, RDD）」は、世界中の希少・難治性疾患の患者さんやご家族にとって、より良い診断や治療の実現により生活の質（QOL）の向上を図ることを目的とした啓発活動です。うるう年である 2 月 29 日が「希少（Rare）な日」であることにちなみ、毎年 2 月最終日と定められています。

RDD は 2008 年からヨーロッパで開始された、希少・難治性疾患分野では世界最大級の社会啓発イベントで、現在は延べ 100 カ国で開催されています。日本では、2010 年の東京開催を皮切りに、開催地域が広がっています。

※RDD Japan ホームページより引用・一部加工（RDD Japan ホームページ <https://rddjapan.info/>）